

季節のうつろい！

日本には四季があり昔からその四季のうつろいを楽しむ風潮がありますが、「春分」「冬至」などで日暮れが早くなつた、遅くなつたなどと感じているのではないでしょくか。

これは1年を24等分（約15日ごと）した「二十四節氣（にじゅうしせつき）」からみた季節のことと、中国で作られた暦をもとにしています。

ですから実際の日本の気候とは若干のずれがあります。これをさらに約5日おきに分けたのが「七十二候（しちじゅうにこう）」と言い、気象の動きや動植物の変化を知らせるもので、日本の気候や風土に合うよう江戸時代に入ってから何度も改定されているそうです。

みなさんも「桜が咲いた」「燕が飛んでいる」「蝉が泣き始めた」など自分の感覚や天気予報のニュースで季節を感じていませんか。



実は気象庁ではこれまでの約70年間、よく知られている桜や梅だけでなく、トノサマガエル、トカゲ、アジサイ、エンマコオロギ、ヒガンバナなど多くの動植物の観測をしてきました。しかし観測場所の都市化も進み、標本とする動植物を見つけにくくなつてきました。例えば「とのさまがえる」は、観測が開始された昭和28年には全国38か所で確認されていましたが、去年は5か所だけだったそうです。

このため気象庁は、全体のおよそ9割にあたる51種類の動植物の観測を今年いっぱいで廃止することにしました。

異常気象・都市化・外来生物の定着もあり、確かに季節を感じる動植物に大きな変化が起こっています。少し寂しい気持ちもありますが、何かほかに新たな季節のうつろいを感じることができる標本動植物はいないのでしょうか。

みなさんも身近なところで季節を探してみてはいかがでしょうか。

（お子さんの夏休みの自由研究とか……それとも自由研究ってもうないのかな？？）



トノサマガエル

京都府レッドデータブック2015